
歩。

じのを

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
歩。

【コード】

N3490G

【作者名】
じのを

【あらすじ】
ある日、主人公の歩は友達に演劇の台本を書いてくれ、と頼まれた。

第1話（前書き）

私は小説を書く事にあたっては、初心者です。それでも良いと言う方は読んで下さい。

第1話

「あーゆむ、どうすればいいと思う?」

「んなの、知るか。」

俺は今友達に、すごくしょーもない相談を受けている。

「なあ、歩ってば。」

「だから、書けばいいだろ?」

俺は小西 歩。15歳。パソコン部の部長をしている。

「無理。だって俺、物語とか考えられねーし。」

コイツはクラスメートの水戸 亮介。演劇部の部長、杉森 あづさに、演劇用の台本を書いてくれと頼まれたらしい。

「でも、好きな奴の為だろ?」

水戸はその言葉を聞いて、顔を赤らめた。

「そう…だけど…」

そしてそのまま、黙り込んでしまった。

「それになんで、相談相手が俺なんだよ。」

「だって、歩。小説書くの上手いし…。」

水戸はまだ、顔を赤らめている。

「まったく、わかった。書けばいいんだろ？」

俺はさっそく、パソコンの前に座った。

第2話

次の日、徹夜して書いた台本を持って、杉森の所へ行った。

「ダメね。」

即答だった。

「は？」

俺は啞然とした。

…徹夜で頑張ったんだぞ！？

「なんで？内容は悪くないはずだ。」

杉森は俺の書いた台本を読みながら、ため息を吐いて言った。

「うん、内容は悪くないの。でも、私が求めているのは、もっと…」

俺は杉森の話に相槌を打ちながらも、内心ではずっとイライラしていた。

そんなに文句言っただったら、自分で書いてみるよ！

「わかった。書き直してくる。」

俺は少し頬を膨らましながら、頷いた。

「ゴメンね。」

杉森は申し訳なさそうに、俺に謝った。

「そう言えば。」

しばらくして、この気まずい空気を和ませる為か、杉森がゆっくりと口を開いた。

「私、水戸君にお願いした筈なんだけど？」

わ…どうしよう。

俺は杉森の問いに戸惑いつつも、水戸の顔をたててやろうと思いつつ、咄嗟にフォローした。

「アイツは…あれだ、塾とかで忙しくて台本を書く暇が無いらしい。」

我ながらナイスフォローだ。

「へえ、勉強熱心なのね。」

杉森は意外…という顔をした。

そう思って当たり前だろう。水戸が塾に通っているというのは本当だが、成績はそれほど良くない。今ごろは、家でゲームでもしてい

るに違いない。

「そうそう、今から部活やるけど、見てく？」

「はい。」

俺は水戸に呆れながら、教室を出て、演劇部の部室に向かった。

部室の扉を開けると、まだ浅い夕日に照らされた教室の中に、椅子がひとつぼつんと置かれていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3490g/>

歩。

2010年11月14日03時23分発行